

たるまえさん

# 1 樽前山が 生まれるまで



たるまえさん

1

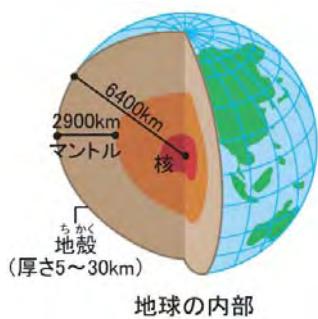
# 博前山が生まれるまで

## 火山ってどうやってできるの？

火山は、地球の中にあるドロドロに溶けた岩(マグマ)が地上に出てきて生まれます。それでは、マグマができる地球の中はどうなっているのでしょうか？ そして、火山はどんなところにあるのでしょうか？

## 知ってる！？

地球の中身は  
どうなっているのかな？



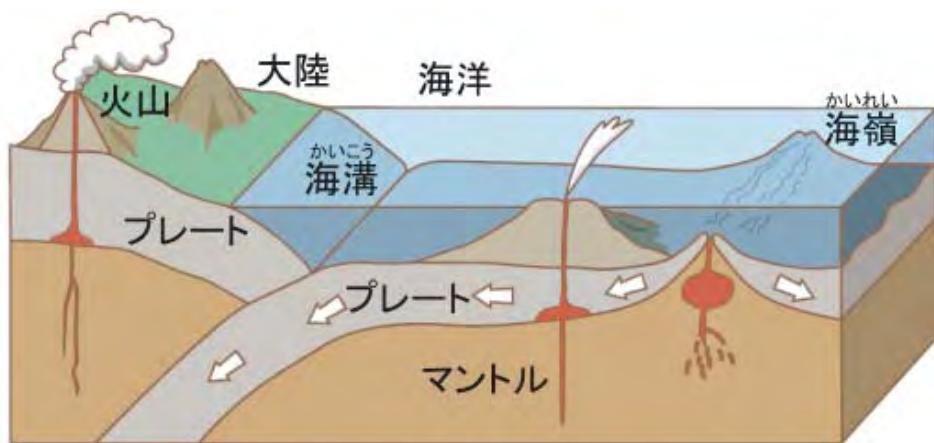
地球の中は、3つの部分に分かれていて、ゆで卵にたとえられます。

一番外側の卵のカラにあたる部分は『地殻』、白身の部分は『マントル』、黄身の部分は『核(コア)』と呼ばれます。地球の内部にいくほど温度は高く、マントルでは約1600℃以上にもなり、核では、なんと4000℃を越えます。

# 火山はどんなところにあるのかな？

みんなの足元の固い部分（『地殻』や『マントルの上部』）は、いくつもの『固い岩の板』からなります。その板は『プレート』と呼ばれて、一年間に数cmずつ動いているのです。

そのプレートとプレートの間や、プレートがマントルの中にしづみこむようなところは、マグマが地上にあがってきやすくて、そこに『火山』ができるのです。



## 知ってる！？



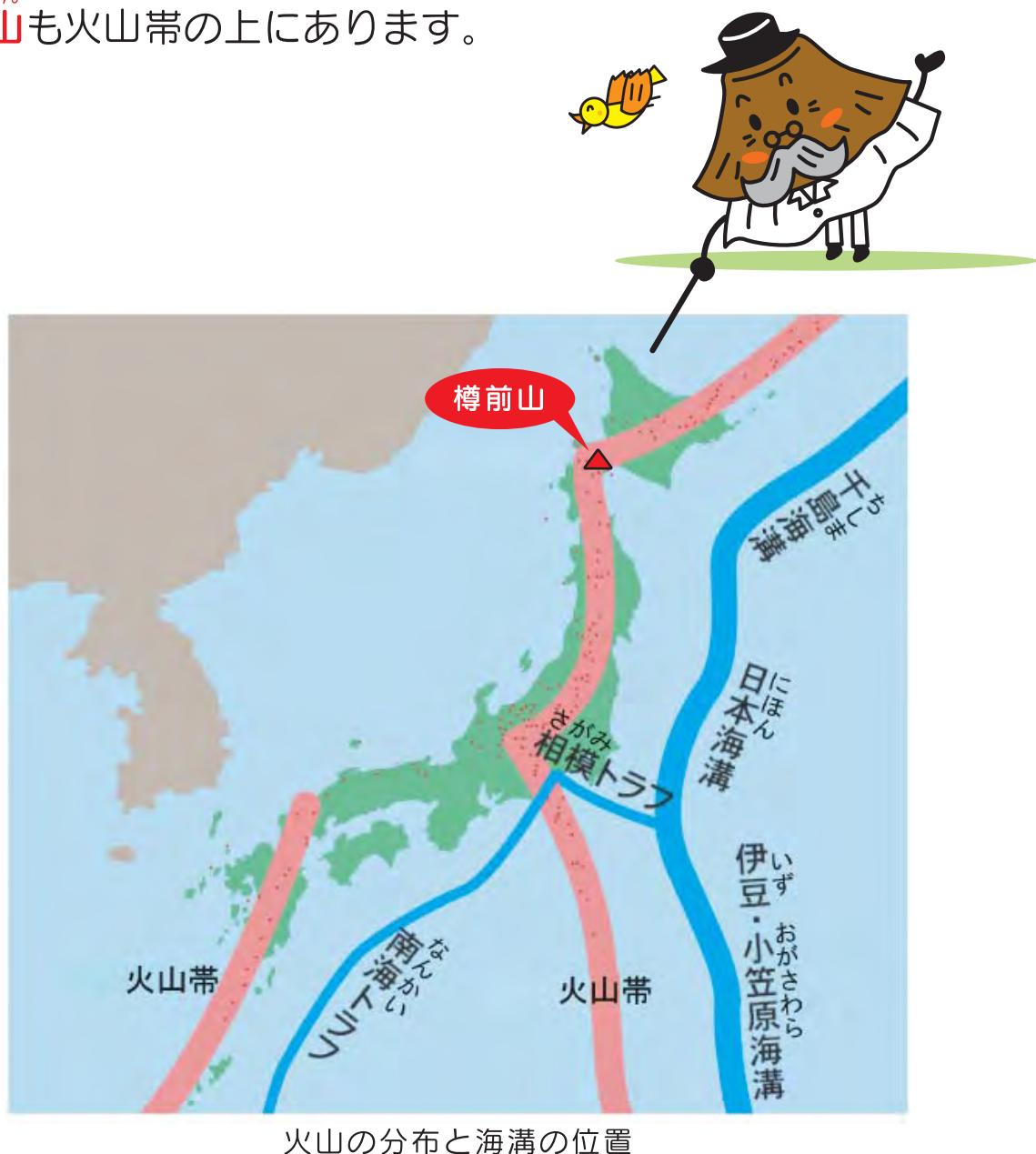
上の図のように、プレートをつきやぶってマグマが地上に出てくる場所もあります。観光地で有名なハワイ島がそうです。

# 日本にはどこに火山があるのかな？

日本にはたくさんの火山があります。

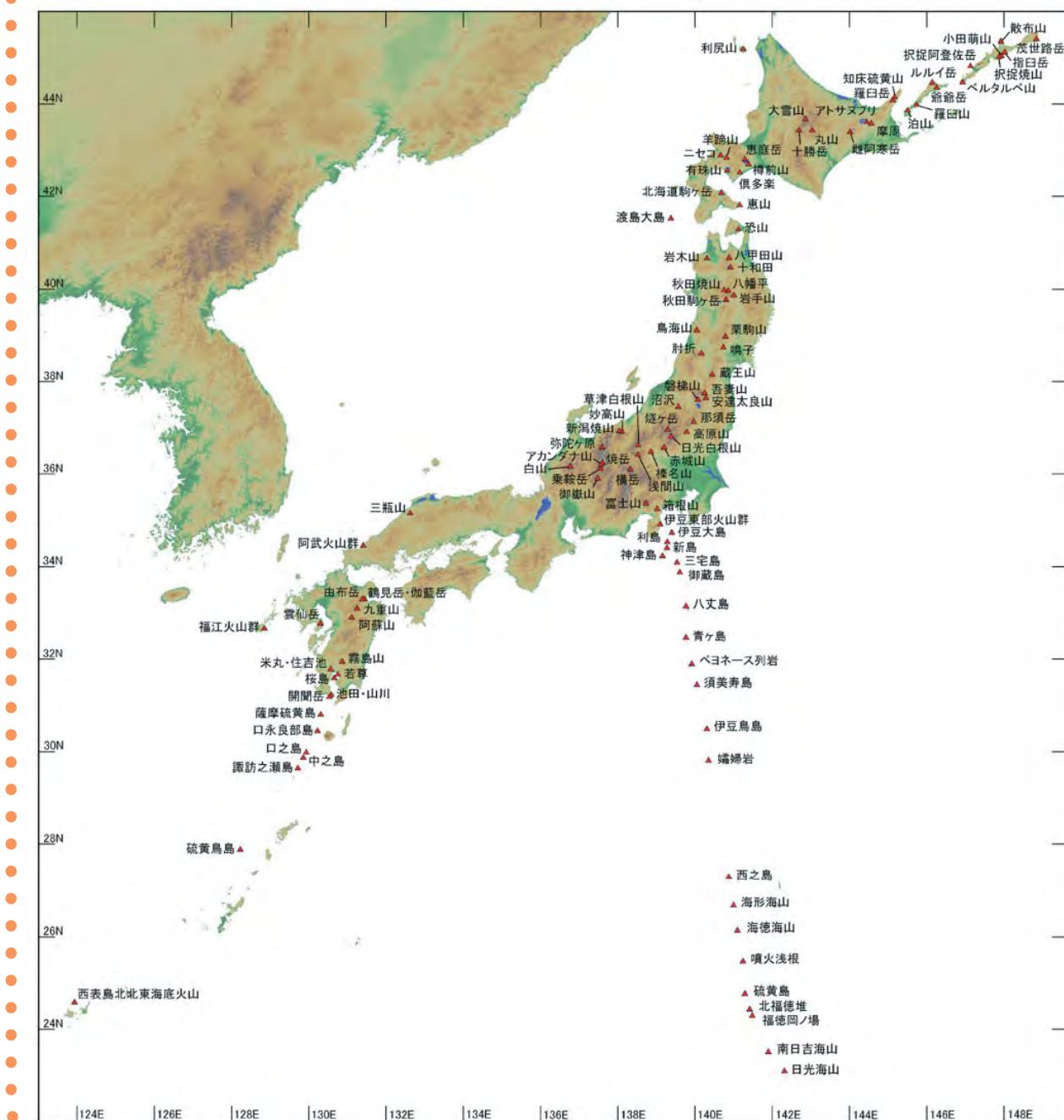
北海道や東北地方、そして伊豆諸島まで、まるで帯(下図の赤い線)  
のようにつながっている火山帯もあれば、近畿・中国地方のように  
火山が少ないところもあるのです。

**たるまえさん**  
**樽前山**も火山帯の上にあります。



# 知ってる!? 火山はどこにあるのだろう?

火山には、もう噴火しない火山と、今後も噴火する可能性のある火山(活火山)があります。活火山はたくさん集まっている場所と、ほとんどない場所がありますね。

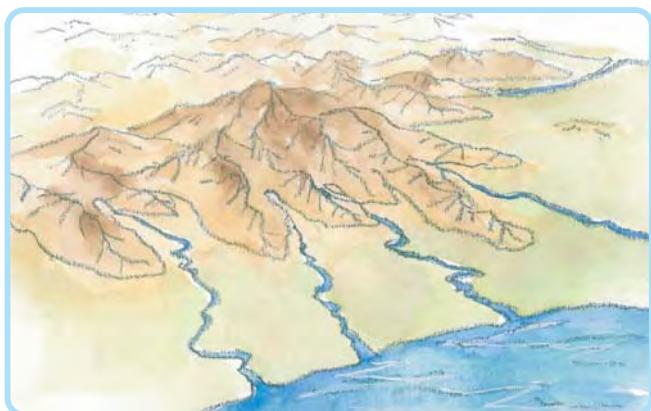


# たるまえさん 樽前山はどうやってできたのかな？

たるまえさん  
樽前山は、ずっと昔から同じ形で今ある場所にあったのでしょうか？ その答えを知るために、樽前山がどうやってできたか、見てみましょう。

## 今から5万年前

樽前山や支笏湖のあたりは、  
低い山地が広がる場所でした。

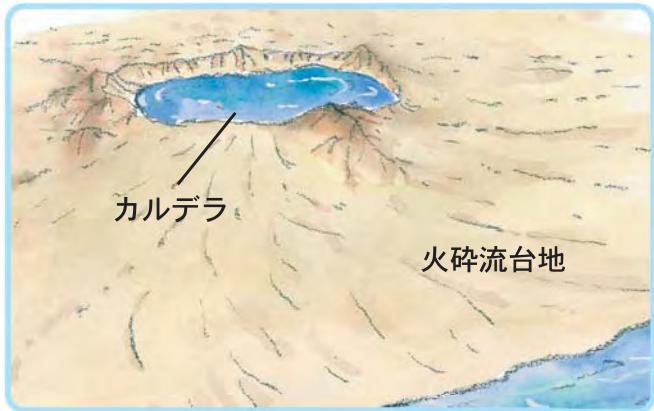


## 約4万年前(旧石器時代後期)

今の支笏湖のあたりで、巨大な噴火が起きました。岩や砂や火山  
ガスが混ざった高温の噴出物が時速100kmを越える速さで地表を  
流れて、周辺の山地を埋めつく  
し、広い台地を作りました。こ  
れを火碎流といいます。

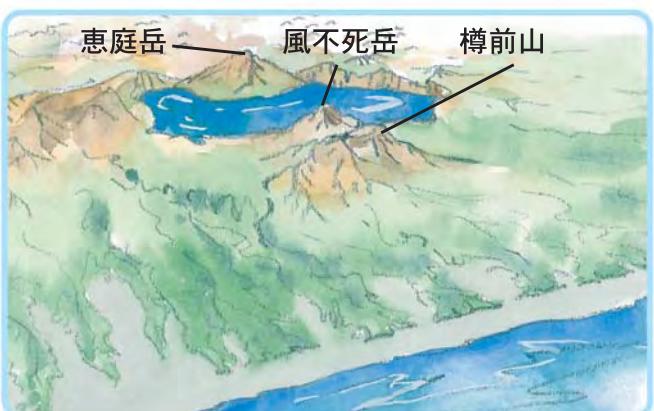


ふんか  
噴火した場所には直径12km  
の円形のくぼ地ができました。  
これをカルデラといいます。  
くぼ地の中には雨水などがた  
まって、支笏湖ができました。



## 2万年前以降～現在

ふっぷしだけ  
支笏湖のふちに、風不死岳、  
えにわだけ たるまえさん  
恵庭岳、樽前山の順に火山が誕  
たん  
じょう  
生しました。これらの火山が支  
笏湖の周りにできたため、円形  
だった支笏湖は現在のような  
ひょうたん型になりました。



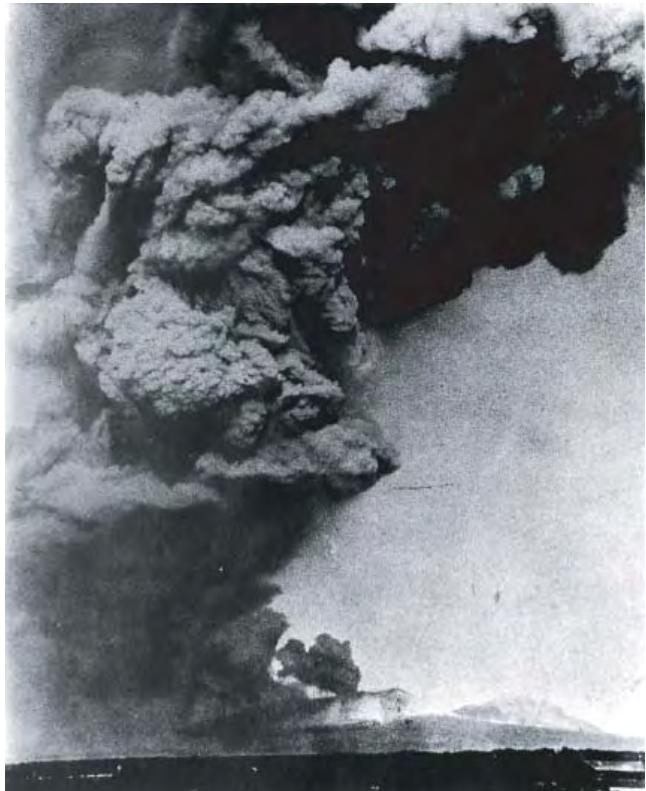
# たるまえさん

# ふんが

# 樽前山はいつから噴火しているのか

樽前山は活発な活火山の一つです。樽前山の噴火活動は、およそ9100年前から始まりました。その中で、大きな噴火は5回、そのうちの2回は江戸時代の1667年、1739年に起こりました。

1909年の噴火の様子  
苦小牧駅付近から写した写真▶



明治時代の1909年には、溶岩ドームというプリンみたいな形の山が出現しました。

# 知ってる!?

どうして大昔に  
噴火したことがわかるの?

噴火をすると、火口から飛びだしたマグマのかけらが地表をおおいます。このマグマのかけらは、砂のようなものを火山灰、穴の空いた白い石ころを軽石と呼びます。

崖や、山を削った場所に行くと、この火山灰や軽石が積もって、しま模様に見えます。これを調べると、いつ、どんな噴火をしたか、文字による記録が残っていない昔の噴火の様子まで知ることができます。

